

あらためて想う「平和」の尊さ ～平和行動in 沖縄

平和行動in 沖縄を6月23～25日に開催し、産別、連合群馬議員懇談会から13名が参加しました。

1日目は、2013平和オキナワ集会在那覇市民会館で開催され、「在沖縄米軍基地と構造的差別」と題した基調講演の後、式典が始まりました。

南雲事務局長からは「世界一危険と言われる普天間基地、オスプレイ飛行訓練など、沖縄の皆さんは戦後68年経っても様々な形で大きな不安と負担を強いられている。連合は、在日米軍基地の整理縮小と日米地位協定の抜本的見直しに向けて、粘り強く取り組んでいく」といった決意表明と挨拶がありました。



平和オキナワ集会场前にて



群馬の塔で折り鶴を献納



薄暗いガマの入口

2日目は、連合埼玉と合同で地上戦が行われた戦跡を巡り、①負傷兵と民間人がひしめき合っていた糸数アブチラガマへの入塚、②平和祈念公園内の群馬の塔へ1万1千羽の折鶴献納、③平和祈念資料館とひめゆり平和祈念資料館での学習、④旧海軍司令部壕への入塚など、多くの民間人が犠牲となった当時の悲惨な状況などを学びました。

その後、在日米軍基地の縮小と日米地位協定の抜本的見直しを求める集会とデモ行進に参加しました。

私たち一人ひとりが沖縄の過去と現実への理解をさらに深め、語り継いでいくことの大切さを痛感するとともに、あらためて「平和の尊さ」「恒久平和」への想いを共有しました。

青年委員会 スポーツ交流会

職場や地域を超えた交流



6月8日、群馬県総合スポーツセンターで、青年委員会のスポーツ交流会を開催し、産別・地協・連合群馬議員懇談会から152名が参加しました。

青年層の職場や地域を超えた交流と、政治に対する関心を高め、より身近に感じてもらえるよう、議員懇から45歳以下の各級議員5名（後藤克己・あべともよ・小川あきら県議、渡辺充徳館林市議・都丸裕史大泉町議）にも参加をいただき、スポーツで交流をはかりました。



円陣を組んで団結を固める

参加者は、8チームに分かれて「ドッチビー」、「なんでもフリースロー」、「逃げ玉入れ」、「混合リレー」の各競技を行いました。

ドッチビーでは、たどたどしい感じで試合開始となりましたが、

しだいに声を掛け合い、連携してパスを回すなど、すっかり打ち解けていました。

議員の皆さんも、ドッチビーで集中的に狙われたり、混合リレーと一緒にボールを運んだり競技を進めるうちに「気軽に声を掛けられる同年代の仲間」になって、チームに溶け込み身近な存在となりました。

参加者からは「違う労組の人と一緒に交流できて楽しかった」、「職場に同年代がいないので、同年代と話をする良い機会だった」との感想がありました。

終了後には、名刺や電話番号を交換する姿も見られ、盛況のうちに終了しました。

青年委員会は、毎年交流会を開催しています。次回はあなたも参加してみませんか？



全力疾走する渡辺市議